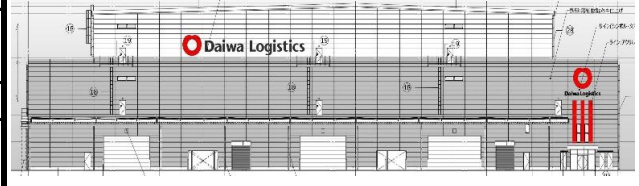


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)一宮丹陽町物流センター	階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県一宮市丹陽町五丁目(東)1番11号(11番)12番(12番)13番(13番)14番(14番)15番(15番)16番(16番)17番(17番)18番(18番)19番(19番)20番(20番)21番(21番)22番(22番)23番(23番)24番(24番)25番(25番)26番(26番)27番(27番)28番(28番)29番(29番)30番(30番)	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	10人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年5月 予定	評価の実施日	2021年4月11日
敷地面積	11,273 m ²	作成者	笹木 一麻
建築面積	6,730 m ²	確認日	2021年4月11日
延床面積	17,433 m ²	確認者	笹木 一麻



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">25.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										2.5
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温				3.0	-	-	-	-	-	-
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	-	-	-
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	-	-	-
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率				3.0	-	-	-	-	-	-
2 方位別開口										
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策										
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-	-	-
3.3 照度				3.0	-	-	-	-	-	-
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	-	-	-
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-	-	-
4.2 換気										
1 換気量				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能						0.43				3.1
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画				3.0	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	-
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性				0.5	3.0	0.52				3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.4	0.33				
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.23				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					5.0	0.09				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					5.0	0.15				
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23				
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19				
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20				
3 電気設備				3.0	3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20				

②

更新必要間隔20年以上の内装仕上材を使用している。

主要3種の2種以上がB以上使用し.Eは不採用。

②

3 対応性・更新性				0.4	3.2	0.48	-	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり				0.3	3.8	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	3.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.1未満である。	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	2.8
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	2.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=	3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化			BEI=	3.0	-	-	-	-	-	-
4 効率的運用				1.0	2.5	1.00	-	-	-	2.5
集合住宅以外の評価				1.0	2.5	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	2.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水機器の採用。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	3.0	4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材使用していない。	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		①	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮				0.5	2.9	0.50	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない。	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	適切な量の駐車場、駐輪場、荷捌き車両用の駐車施設の確保。	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)一宮丹陽町物流センター

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策				N. A	
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00		
② 資源の有効活用					2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22		
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.21		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19		
③ 敷地内の緑化				1.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:25.1%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)一宮丹陽町物流センター

計画上の配慮事項	
総合	シンプルな外観とすることで周辺環境への配慮を図りつつ、LED照明等の省エネ性能向上を図る設備機器の採用により、LCCO2の排出率を抑える計画とした。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	室内の快適性と室内環境の向上を図りつつ、壁長さ比率を小さく抑え、空間の自由度を高めた計画とした。
Q3 室外環境(敷地内)	建物高さ、位置等周辺のまちなみ景観への配慮をした計画とした。
LR1 エネルギー	効率的な設備機器(LED照明等)の選定により省エネを図る計画とした。
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上材が容易に分別できる等、部再利用可能性向上への取組を考慮した計画とした。
LR3 敷地外環境	建築物の高さ形状建築物間の隣棟間隔等を工夫し、温熱環境悪化への配慮をした計画としている。
その他	